

第1回 森林・林業・木材産業への投資のあり方検討会 議事概要

I 開催日時 令和4年1月31日（月）13時～15時30分

II 開催場所 オンライン開催

III 検討会委員

○龍原 哲	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授
安藤 範親	株式会社農林中金総合研究所 主事研究員
宇都木 玄	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所研究ディレクター（林業生産技術研究担当）
大島 英彦	株式会社日本政策金融公庫 特別参与
佐々木 太郎	全国森林組合連合会 参事
本郷 浩二	一般社団法人全国木材組合連合会 副会長
松本 晃	株式会社日本政策投資銀行 地域調査部参事役
森澤 充世	一般社団法人CDP Worldwide-Japan 理事、ディレクター

計8名 ○：座長

IV 議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者紹介
4. 検討会設置、座長の選任について
5. 議事
 - （1）森林と脱炭素をめぐる情勢について
 - （2）関係者ヒアリング（株式会社トビムシ 代表取締役 竹本 吉輝）
 - （3）意見交換
 - （4）その他（連絡事項等）
6. 閉会

V 資料

議事次第

資料1	出席者名簿
資料2－1	森林と脱炭素をめぐる情勢について
資料2－2	株式会社トビムシ説明資料
資料3	Web会議の開催にあたってのお願い
資料4	「森林・林業・木材産業への投資のあり方検討会」設置要領
資料5	今後の予定

VI 委員からの意見

森林投資について

- 海外の森林ファンドの投資期間は 10 年程度であるが、海外のように日本の森林は 10 年で収益を上げて投資回収できるところまでは行っていないのではないかな。
- 日本の急峻な地形等を考えると低生産性や高コストといった課題があり、日本の林業ビジネスモデルとして投資を成立させるためには様々な前提要件がある。国内林業は公益性と絡めて国や地方自治体から何らかの補助の上で成立している。
- 森林投資には、効率性を重んじて、新しいテクノロジーや規模の経済で儲かる工夫をする者と、J クレジットへの関心から投資を考えている者の両者が存在している。
- 自然の吸収機能で削減するにも限界があると思われる。日本の場合には、数量的にどれほどのクレジット化できる余地があるのか数字の整理が必要ではないかな。
- 各種の補助制度や J クレジット収入等を結びつけていく中で、日本の林業のビジネスモデルを作っていくことが必要であり、様々な事例を類型ごとにシミュレーションしながら数字を当てはめて議論していくのが良いのではないかな。
- 今の最大の問題は、木材収入では再造林経費まで回っていかないことである。海外では木材生産だけを投資対象としても収益をあげられるが、国内林業の生産性やコストでは木材生産だけで投資を成立させることは難しく、低コスト化を進めるとともに、J クレジットや木材利用等で付加価値を付けることが必要。

指標検討について

- 地域によって、インフラ整備や人材育成の状況などステージは違う。それを一般化して議論するのは非常に難しいので、ローカルな形、類型ごとに、どういう指標を考えていくのがいいのか議論した方がいいと思う。全体を一般化することよりも、個別案件ごとに必要になる指標を議論するのがいいのではないかな。
- 次回にもヒアリングを行うが、森林分野への投資について、具体的な取り組み事例を御存じであればイメージを深めるため情報提供いただきたい。
- 林業・木材産業については、E との関わりが大変強いフィールドと思っている。何をどうすれば ESG にかなうのか、お金の潜在的な出し手である金融機関・投資セクター、潜在的なその受け手になりうる一次産業者の皆様も、やりたいけれどもさあどうなのかということで、いろいろ考えており、情報を必要としている状況ではないかな。このような時に、林野庁が指標づくりに乗り出すことは、大変意義があり時宜に適ったことではないかな。
- カーボンに関係してくると、日本の金融機関は前向きに動いてくれると感じている。モデル形成やガイダンスを作ることで、使う側にも促進していけるのではないかと期待している。

生物多様性等の脱炭素以外の評価について

- 生物多様性の保全も森林の有する付加価値として考えられるのではないかと。CDP の気候変動質問書にも今年から生物多様性の項目が追加された。
- 生物多様性は財務諸表以外に投資の指標になるものがないかという問いかけにまさに関連する考え。
- 生物多様性については、数値化の仕方も科学的にどこまで正しいかよく分からないし数値化は難しい。
- 非財務情報の評価については、ESG 投資の先にあるインパクト投資において特に重要視されている。しかし、インパクト評価には統一的な指標がなく、ロジックモデルで推定したり、個別用途に即して作られたりしている。ESG 課題解決のためにインパクトをどのように評価するか、その観点で森林の評価についても考えていけばいいのではないかと。

その他

- 今、投資が進んでいると感じる分野は、中高層木造建築物である。脱炭素の流れの中で木材利用が注目されだしており、投資が進んでいくと感じている。その流れをいかに川上までもたすかという仕組みづくりが重要。川上は森林境界や小規模所有など様々な課題がある中で、動きやすいところをより円滑にして、川上にも恩恵がもたらされるような仕組みづくりを考えていくことが必要である。
- 付加価値として日本の森林・林業の魅力をいかに海外に発信していくかが重要。日本の持つ木の文化をいかにプライシングしていくか。森林伐採が問題視される海外状況とサステイナブルな森林保全のために手を入れて活用しないといけない日本の状況は全く異なる。そのことを海外の方にも理解していただければと考えている。

(以上)